

鹿児島県曾於市

活動名

財部北校区学校応援団地域本部

関係する学校

財部北小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の年間参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の年間参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

曾於市は、人口の減少、高齢化率の上昇により、集落によっては子供会が組織できなかつたり、自治会自体が存続できない状況になってきたりしている。

このような中で、様々な家庭や地域の環境の変化に対応して、これまで以上に学校、家庭、地域が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、地域の活性化を図ることを目的に、平成23年度にモデル校区（3校区）を指定して、学校応援団活動に取り組み始めた。

平成24年度には市内全小学校区に地域本部を設置し、延べ315人の応援団員が登録し、278回の学校応援団活動が実施された。

平成26年度は、学校応援団登録者数451人、2,308回の応援団活動が実施され、支援内容も「学習活動」「体験活動」「読書活動」「部活動」「環境整備」「安全活動」など、様々な内容であった。

また、学校行事やPTA行事の際、未就学児を対象とした託児支援活動も実施され、家庭教育支援に関する活動も展開されるようになった。

財部北小学校区では、小規模校の実態に応じて様々な応援活動を行っている。特に「学校応援団員が児童と一緒に授業を受ける」という特色ある学習支援活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

財部北小学校は、児童数15人（完全複式の3学級）の極小規模校である。

平成26年度は、159回の学校応援団活動が実施され、そのうち学習支援活動は14回実施した。その中で、1・2年生の生活科、3・4年生の国語科、5・6年生の社会科などの授業に述べ49人の学校応援団員（地域の方）が授業と一緒に受けた。

このような学習支援活動では、児童数が1学年数人という状況の中で、地域の方々ゲストティーチャーや補助指導だけでなく、児童と一緒に児童の立場で授業を受ける応援団活動が大きな教育効果をもたらしている。

【実施に当たっての工夫】

財部北小学校では、1学年が1～4人という極小規模の中で、子供たちのコミュニケーション能力の育成、発表力や表現力の育成が課題である。そこで、学校応援団員にはなるべく小学生時代に戻って、子供たちの同級生の立場になって授業を受けるようお願いしている。

また、単発的な参加ではなく、できるだけ継続した授業参加になるように依頼している。（例えば、国語科では1単元3～5回とか、音楽では一つの曲を完成するまでなど）

学校応援団員には、前もって教科書・教材のコピーや資料を渡して、打合せを行い、予習をお願いすることもある。



読書感想の意見交換

事業を実施して

授業を受ける同級生が増えることにより、子供たちが刺激を受け、授業に深まりがみられるようになった。また、人数が増えたことにより、コミュニケーション能力や思考力、発表力、表現力等の育成など、教師にとっては指導法改善の一助となった。さらに、授業に参加した学校応援団員の感想には「児童の皆さんとお友達になり、会話をしながらたくさんパワーを頂いた。」「時には本を借りて帰り、予習もしながら明日の授業に臨むという、小さな幸せ、生きがいを感じながら授業を受けました。」などがあつた。

その他

平成25～26年度鹿児島県教育委員会指定「読書指導」研究協力校として研究を行い、多様な意見を交流させるために学校応援団員の授業参加を実践している。授業研究では「人生経験豊かな地域の方々、子供と違った視点で発表されるので、様々な考え方を共有できた。」という意見等も聞かれ、成果が現れている。



児童と同じように感想発表！